



2019年度定期総会が行われました

重田 雅敏（重田2号）代表

去る4月28日（日）、オリックス千駄ヶ谷ビルにおいてアキレス・インターナショナル・ジャパンの定期総会が行われました。54名の方が参加され、会計報告、新年度活動案などについて、報告と、活発な意見や質問が行われました。（以下、数字は千の位で四捨五入しているため、差引金額が合わない箇所もありますがご了承ください。）

会計報告では、2018年度中に70万円の収入、61万円の支出があり、差引収支が9万円、この結果、前年度繰越金56万円と合わせて65万円が2019年度に繰り越される旨の報告がありました。活動報告、会計監査報告および会計細則の改正案とともに、質疑応答後、拍手多数で承認されました。

また、今後当会を安定的に運営していくために、NPO法人化する旨の提案があり、活動の内容に大きな変更はないことや、NPOの組織などが説明されました。質疑応答後挙手により採決し、賛成多数により、NPO法人化の手続きを進めることになりました。

新年度活動計画は前年度と同様、また、予算としては収入68万円、支出92万円、差引収支マイナス約25万円、前年度繰越金65万円、次年度繰越金40万円が提案され、質疑応答後に拍手をもって承認されました。ただし新年度の活動と予算については、NPO法人の進捗状況により、必要に応じて変更があることが説明されました。

そのほか、ふれあいマラソンの準備状況、あっぴるの編集体制について説明があった後に、閉会となりました。

香港マラソンに参加して

浅見 清さん

2月16日から3泊4日で香港マラソンを走り、観光も楽しむことができました。アキレスのメンバーは、総勢15名でした。現地では以前アキレスで伴走していたクレメントさんと彼の部下数名が、夕食会や大会伴走・観光に協力してくれました。

参加ランナーは8万人と聞いて驚きましたが、スタート地点の近くでバンバンからの参加者の3人に会いました。偶然というのは不思議なものです。ゴールまでランナーがばらけることはなく、高層ビルの谷間や高速道路を走っているという説明を受けながら走りました。暑さを心配していましたが、時折風が小雨を吹きつけてきて気持ちいいくらいでした。海底トンネルでは皆で大きな声を出してはしゃぎました。沿道では「ガウヨウ」という声援があちこちで聞こえました。「頑張れ」という意味だそうです。沿道の応援は嬉しいものですね。

大会翌日には、マカオで500年前の教会の門を手で触って感動し、カジノでは、私は賭け事には弱いので、無料のソフトドリンクを飲んだだけでした。

アキレスのお陰で、香港を楽しむことができ、参加者の皆さんと親睦を深めることができました。ありがとうございました。

総会の様子（左）



香港マラソンツアー一行（右）



第 15 回アキレスふれあいマラソン 2019 を終えて

滝澤 秀樹さん（タッキー）

大会実行委員として、大会運営の雑務全般を担当した立場で、5月19日（日）に開催されたアキレスふれあいマラソン～Hope & Possibility～のご報告をさせていただきます。

今年も、都立大島小松川公園を会場に、昨年を少し上回る 155 名の障がい者ランナーとその伴走者が初夏の日差しの下参加しました。また、4 つの地元ランニングクラブや、協賛の銀行のボランティアなどを含めて 100 人以上の方々が、運営スタッフとして大会を支えてくださいました。特に地元クラブの方々にはテントやエイドの設営からサイクリストへの声掛けまできめ細かなサポートをしていただき、お陰様で競技中の怪我等もなく、無事終えることができました。この場をお借りして皆様に心よりお礼申し上げます。

それから、今年は 15 回目の節目の大会ということで、競技終了後にミニ記念イベントを開催し、オグリーとまどかが楽しく進行してくれました。長きにわたってふれあいマラソンを支えてくださっている地元ボランティアの方に感謝状を贈呈しました。15 回連続出場記念ワッペンなどの記念品を受けられた方、おめでとうございます。

当日は、委託業者のプリンター不調で、記録証発行が大幅に遅れ、多くの方にご迷惑をおかけしてしまいましたが、こうした反省をいかして、引き続き多くの人に楽しんでもらえる大会を目指して、工夫していきたいと思います。何はともあれ、自分で走る以上に、走ることのワクワクと喜びを感じた一日でした。



ふれあいマラソン みんなの声 インタビュアー 浅野 円歌さん(まどか)

- ◇ 車椅子ランナーのともさんと伴走者の江東シスターズの酒井たっくん
ともさん「車椅子ランナーは、上り坂はゆっくり、下り坂はとても速くなってしまう。他のランナーへ自分から声出しが必要だと思っています」
たっくん「車椅子ランナーの伴走は他の参加者へも注意を払う必要があります」



- ◇ ランナーのさがっちさん
「5キロにエントリーしました。大会に出るのは初めてです。どこまでいけるか楽しみです」

- ◇ 韓国から参加のランナー イミンギュさん

「首都のソウルでも視覚障害の練習会は15人から20人くらいの規模なので、東京のクラブは大きすぎてすごいです。日本語は旅行のために塾で習いました」



- ◇ ランナーのぎたあさん

ぎたあさんの服装は、上は白、下は黒ズボンの中国服です。伴走のゆうさんはロングのチャイナドレス！「香港マラソンで走った時と同じ、ブルースリーの格好です。コスチュームはアマゾンで買いました。ヌンチャクはクリアファイルを丸めて手作りしました」

- ◇ 記録証点字担当のりえちゃんとDeb(サンタ)さん

りえちゃん「記録証に点字を入れる係になりました。Debさんが読み上げた名前や記録を打ちます」
Debさん「インドも暑いけど日本も暑い！！」

- ◇ スタート地点前給水 江東シスターズの庄内さんと有田さん

「暑かったので、あんぱんよりも水分を摂るランナーが多かったです」

- ◇ 折り返し前給水 東砂 SCRC の渡辺けんじさん、田村かよこさん

「声出しすることやコップを手渡しすること、飲み終わったコップを受け取るなど配慮しています」

- ◇ 東大島駅から会場への誘導と走路観察 深川ランナーズの柳瀬かずちゃん
と田崎よっしー

「ふれあいマラソンは家族みたいで和気あいあいとしているのが好きです」

- ◇ 橋下の走路観察 江東マラソンクラブの金子さんと岡部さん

「クラブは47年間活動しています。以前は走りましたが、今は猿江公園でラジオ体操をしています。ふれあいマラソンのいいところは、ボランティアが集まる点です」



アキレス初の伴走体験会、ユニバーサルキャンプ TOKYO で 田畑 美智子さん(タバッチ)

4月19日と20日の2日に亘り、品川シーサイドテラスで開催された「ユニバーサルキャンプ TOKYO」で、アキレスが伴走体験会を出展しました。パラスポーツ普及のために講演や展示会、様々な体験会などの総合イベントの中、ブラインドサッカーのJBFA、クライミングのモンキーマジックと一緒に、裏庭に陣取って参加者と一緒に元気に過ごしました。

2日とも最初は、地元の小学校4年生20名ほどを一組に、25分くらいのとても短い時間の中、視覚障害のある人を案内する時の最低限の注意と、ロープを持ってウォーク・ジョグの練習を体験してもらいました。とてもいい気づきがあったり、元気余って転んでしまったり、講師をした重田2号もオオゴシヨも、初めてマイクを握った私も、色々工夫し苦労しつつ楽しく交流。土曜日は学校が終わった午後に再訪してくれたグループも。親子で遊びに来たご近所さんとは、3歳の子どもを挟んでパパと重田2号。近所に住む私の職場の人も遊びに来てくれました。

すぐに伴走者というわけにはいかないかもしれないけれど、一つ一つの積み重ねが一步步障害者スポーツと視覚障害の理解に繋がっていくと思います。アキレスとして貴重な経験値となりました。



アキレス川柳コーナー

今回より新しい試みとして、「アキレス川柳のコーナー」を設けることになりました。川柳は、時代を映す鏡。今、川柳はブームのようで、昨年実施されたサラリーマン川柳には実に四万七千通もの応募があったんだとか・・・。今回は第一回ということで、スタッフのてるみん、私ヤッシー、そして日ごろ川柳を楽しんでいるしばらくさんにオープニングを飾ってもらいました。

手を繋ぎ楽しく走る 感謝です (しばらくさん)

お腹見て 席譲られて 顔隠す (てるみん)

「がんばれ」をくれたあなたは はるか先 (ヤッシー)

編集後記

皆さんも川柳に挑戦してみませんか？日常生活の中で感じていることやランニング中でのひとコマ、その他皆さんが考えていることなどを、5・7・5の川柳にまとめてみてください。なお、川柳に関する解説文などは必要ありません。毎回いくつかを選んであつぷる紙面でご紹介させていただきます。

次回の締め切りは12月15日。

メール宛先は k.yassy1018@gmail.com

(ヤッシー)

八代 啓吾さん (ヤッシー)

アキレス・インターナショナル・ジャパン

連絡先住所

〒175-0094 東京都板橋区成増

2-32-15-519 豊原方

電話

090-2203-3346 (重田代表)

ホームページ

<http://achillesinternational.jp/>